

平成18年度の学会賞の授与について

第25回日本自然災害学会学術講演会が、平成18年11月13～14日に、桐生市に於いて開催された。11月14日（火）に開かれた総会の中で、学会賞の授賞式が行われた。日本自然災害学会の学会賞として、功績賞と学術賞が設けられている。

学術賞は河邑 眞 氏（豊橋技術科学大学 教授）に授与された。功績賞・国際賞に該当はなかった。



学術賞

受賞者：豊橋技術科学大学 教授 河邑 眞 氏
研究題目：高分解能衛星画像と森林データベースを用いた土砂災害特性分析とその災害対策支援 GIS への応用
掲載誌：「自然災害科学」Vol. 23, No. 2, 2004, pp. 245-258
「自然災害科学」Vol. 25, No. 1, 2006, pp. 35-50

受賞理由

災害箇所の正確な位置の把握が困難な山間地について、高分解能人工衛星画像を解析し正確な災害記録を作成する手法を提案している。また地形、地質、植生についての森林データベースを利用し、土砂災害特性を分析するという新たな手法を提案するとともに、素因ばかりでなく誘因の特性も合わせて、災害対策支援を行う手法を提案している。これら新しい手法は、これまでになかった観点にたつもので画期的である。

受賞コメント

このたびは、「高分解能衛星画像と森林データベースを用いた土砂災害特性分析とその災害対策支援 GIS への応用」という研究題目に対して、日本自然災害学会 平成18年度学術賞をいただくことができ、光栄に存じます。

この研究では、まず、2000年東海豪雨により岐阜県矢作町に発生した土石流や斜面崩壊による崩壊箇所を高分解能衛星画像により検出する手法を提案し、精密な崩壊箇所のデジタルマップを作成しました。つぎに、森林データベースと数値標高データを用いて、崩壊箇所の地形、地質、植生などの特徴を分析し、災害特性を明確にしました。さらに、これらの成果をもとに、土砂災害対策支援 GIS の構築を行いました。この地理情報システムでは、災害発生直前の避難勧告について、地

形、地質、植生などによるハザードマップと、降雨量の時間的、空間的分布データを利用し避難勧告を行うシステムを提案しています。災害発生直後の被害把握については、衛星リモートセンシングを利用して道路などの復旧対策に応用する方法を示しています。さらに、砂防ダムなどの計画を行う災害復興時において、リスクマネジメントにより復興地点の優先順位を決定する機能を有しています。

災害箇所の正確な位置の把握が困難な山間地について、高分解能人工衛星画像を解析し、正確な災害記録を作成する手法を提案していること。また、地形、地質、植生についての森林データベースを利用し、土砂災害特性を分析するという新たな手法を提案するとともに、素因ばかりでなく誘因の特性も合わせて、災害対策支援を行う手法を提案していること。これら新しい手法の提案は、これまでになかった観点にたつものと考えます。

この研究は、豊橋技術科学大学とその卒業生の勤務している福井工業高等専門学校との共同研究として実施いたしました。今回の学術賞の受賞は、研究グループのこれまでの努力の成果としてよい記念になりますとともに、今後の活動に対するよい励みとなります。学術賞を授与していただきまして、誠にありがとうございました。末筆ながら、この研究を支えていただきました関係各位に深く感謝いたします。